



CLIの構造

SANtricity commands

NetApp
June 17, 2025

目次

CLIの構造	1
SANtricity CLIコマンドの構造について学ぶ	1
SANtricity CLI インタラクティブ モードについて学ぶ	1
SANtricity CLIコマンドラッパー構文について学ぶ	2
CLIコマンドラッパー構文の表記規則	2
httpsクライアントモードでの例	2
symbolクライアントモードの例	3
ダウンロード可能なSANtricity Secure CLI (SMcli) パラメータについて学ぶ	4
11.60以降のダウンロード可能なSMcliコマンドラインパラメータ	4
従来のSANtricity CLIコマンドラインパラメータについて学ぶ	10
11.53以前のコマンドラインパラメータ	10
E2700またはE5600コントローラにのみ該当するコマンドラインパラメータ	11
symbolクライアントタイプで実行されているすべてのコントローラに適用されるコマンドラインパラメータ	12
すべてのコントローラおよびすべてのクライアントタイプに適用可能なコマンドラインパラメータ	13

CLIの構造

SANtricity CLIコマンドの構造について学ぶ

CLIコマンドは、コマンドラッパーおよびラッパーに組み込まれた要素で構成されます。

CLIコマンドは、次の要素で構成されています。

- SMcliという用語で識別されるコマンドラッパー
- ストレージアレイの識別子
- 実行する処理を定義するターミナル
- スクリプトコマンド

CLIコマンドラッパーは、ストレージアレイコントローラを識別し、処理のターミナルとスクリプトコマンドを指定し、これらの値をスクリプトエンジンに渡すシェルです。

すべてのCLIコマンドは次の構造になります。

```
SMcli *storageArray storageArray terminal script-commands*;
```

- SMcliは'コマンド・ライン・インターフェイスを起動します
- 「storageArray storageArray」は、ストレージアレイの名前またはIPアドレスです。
- 「terminal」は、コマンドの環境と目的を定義するCLI値です。
- 「script -commands」は、1つ以上のスクリプトコマンド、またはスクリプトコマンドを含むスクリプトファイルの名前です。（スクリプトコマンドはストレージアレイを設定および管理します）。

構文'パラメータ名'オプション'端末が正しくない不完全または不正確なSMcli文字列を入力すると'スクリプト・エンジンは使用情報を返します

SANtricity CLI インタラクティブ モードについて学ぶ

対話型モードでは、コマンドの前にを付けずに個々のコマンドを実行できます
SMcli。

SMcliおよびストレージ・アレイ名を入力し、CLIパラメータ、スクリプト・コマンド、またはスクリプト・ファイルを指定しない場合、コマンド・ライン・インターフェイスは対話型モードで動作します。

対話型モードでは'1つのコマンドを入力して結果を表示し'次のコマンドを入力できます完全なSMcli文字列は入力されません対話型モードは、構成エラーを確認したり、構成の変更を迅速にテストしたりする場合に役立ちます。

対話型モードのセッションを終了するには、オペレーティングシステム固有のコマンドを入力します。Linuxの場合、このキーの組み合わせは* Control-D*です。Windowsの場合、このキーの組み合わせは* Ctrl + Z + Enter *です。

SANtricity CLIコマンドラッパー構文について学ぶ

このセクションでは、CLIコマンドラッパーの一般的な構文を示します。CLIコマンドラッパーの構文で使用される表記規則を次の表に示します。

CLIコマンドラッパー構文の表記規則

表記規則	定義 (Definition)
「a	b`
選択肢（「a」または「b」）	「 <i>italic</i> 」 - 「 <i>words</i> 」
パラメータを指定するには、ユーザ入力が必要です（変数への応答）。	'[...]` (角括弧)
0または1回のみ使用可能（角かっこは、一部のコマンドパラメータの区切り文字としても使用されます）	'+{... }→(中かっこ)
0個以上のオカレンス	'(a
b	c)`
選択肢を1つだけ選択してください	「a&
b`」	および/または。一方または両方のコントローラIPアドレスを使用できるhttpsクライアントモードで使用します。一方のコントローラが応答しない場合、SMcliは代替のIPアドレスを使用します。また、ファームウェアのダウンロードなど、両方のIPアドレスが必要な場合にも対応します。



すべてのCLIコマンドを実行するには、管理者権限が必要です。一部のCLIコマンドは管理者権限がなくても実行されますが、ただし、コマンドの多くは実行されません。適切な権限がないためにCLIコマンドが実行されない場合は、CLIから終了コード12が返されます。

httpsクライアントモードでの例

次の例では'で説明している'https'クライアント・モードのコマンド・ライン・パラメータを示します [コマンドラインパラメータ](#)。

```
SMcli (Controller A host-name-or-IP-address&|  
Controller B host-name-or-IP-address) -u username -p password -c  
"commands;" [-clientType (auto | https | symbol)]
```



clientTypeを指定せずに'-u'オプションと'username'変数を指定した場合、システムは'http'または'symbol'クライアント・モードのいずれかを使用します

symbolクライアントモードの例

次の例は、説明する'symbol'クライアントモードのコマンドラインパラメータを示しています [コマンドラインパラメータ](#)。

```
SMcli **-a** **email:** email-address [host-name-or-IP-address1 [host-name-or-IP-address2]] [**-n** storage-system-name | **-w** wwid | **-h** host-name] [**-I** information-to-include] [**-q** frequency] [**-S**]
```



-aコマンド・ライン・オプションは'E2800またはE5700ストレージ・アレイではサポートされていません

```
SMcli **-x** **email:** email-address [host-name-or-IP-address1 [host-name-or-IP-address2]] [**-n** storage-system-name | **-w** wwid | **-h** host-name] [**-S**]
```



-x'コマンド・ライン・オプションは'E2800またはE5700ストレージ・アレイではサポートされていません

```
SMcli (**-a** | **-x**) **trap:** community, host-name-or-IP-address [host-name-or-IP-address1 [host-name-or-IP-address2]] [**-n** storage-system-name | **-w** wwid | **-h** host-name] [**-S**]
```



-aおよび-xコマンド・ライン・オプションは'E2800またはE5700ストレージ・アレイではサポートされていません

```
SMcli **-d** [**-w**] [**-i**] [**-s**] [**-v**] [**-S**]
```



-sコマンド・ライン・オプションは'E2800またはE5700ストレージ・アレイではサポートされていません

```
SMcli host-name-or-IP-address **-F** email-address [**-g** contactInfoFile] [**-S**]
```

```
SMcli **-A** [host-name-or-IP-address [host-name-or-IP-address]] [**-S**]
```

```
SMcli **-X **(**-n** storage-system-name | **-w** wWID | **-h** host-name)
```

```
SMcli **-?**
```

ダウンロード可能なSANtricity Secure CLI (SMcli) パラメータについて学ぶ

SANtricity OS 11.60以降のリリースでは、SANtricityシステムマネージャからHTTPベースバージョンのCLI（「Secure CLI」またはSMcliとも呼ばれます）を直接ダウンロードしてインストールできます。

11.60以降のダウンロード可能なSMcliコマンドラインパラメータ

SMcliは、E4000、EF600、EF300、E5700、EF570、E2800、EF280、EF300C、EF600Cの各コントローラでダウンロード可能です。SANtricityシステムマネージャからSMcliをダウンロードするには、[設定][システム]および[アドオン]*[コマンドラインインターフェイス]*を選択します。



CLIコマンドを実行する管理システムに、Java Runtime Environment (JRE) バージョン8以降がインストールされている必要があります。

以前のバージョンのSMcliと同様、SANtricity System Managerからダウンロード可能なSMcliには、固有のパラメータセットがあります。SANtricity OS 11.53以前のリリースでのコマンドラインパラメータの使用方法については、を参照してください ["従来のコマンドラインパラメータ"](#)。

多要素認証

SAML (Security Assertion Markup Language) が有効になっている場合は、CLIで使用できるのはアクセストークンのみです。SAMLが有効になっていない場合は、ユーザ名とパスワード、またはアクセストークンを使用できます。アクセストークンは、SANtricity システムマネージャを使用して生成できます。

パラメータ	定義 (Definition)
-t	ストレージアレイでの認証に使用するアクセストークンを定義します。アクセストークンは、ユーザ名とパスワードの入力に代わるものです。
-T (大文字)	この引数には次の2つの引数のいずれかが必要です。 <ul style="list-style-type: none">access_token-file -認証に使用するアクセストークンが含まれます- (dash) - stdinからアクセストークンを読み取ります

パラメータ	定義 (Definition)
「-u」	<p>このパラメータは、とともに使用します <i>username</i> 変数 (Variable) : このパラメータは、アクセストークンを使用しない場合に必要です。</p>
「-p」	<p>コマンドを実行するストレージアレイのパスワードを定義します。次の場合、パスワードは必要ありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ストレージアレイにパスワードが設定されていません。 パスワードは、実行しているスクリプトファイルで指定します。
-P (大文字)	<p>この引数には次の2つの引数のいずれかが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>_password_file</i>-認証に使用するパスワードを格納します - (one Dash)- <i>stdin</i>`からパスワードを読み込みます

一般的なhttpsモードのコマンドラインパラメータ

ダウンロード可能なSMcliは、httpsモードのみをサポートしています。httpsモードで一般的に使用されるコマンドラインパラメータを次に示します。

パラメータ	定義 (Definition)
<i>host-name-or-ip-address</i>	<p>ホスト名またはインターネットプロトコル (IP) アドレスを指定します (<i>xxx.xxx.xxx.xxx</i>) を使用できます。</p> <p>各コントローラのイーサネット接続を使用してアウェトオブバンドストレージの管理を管理する場合は、を指定する必要があります <i>host-name-or-IP-address</i> をクリックします。</p>
「-k」	<p>このオプションの引数では、を使用できます https クライアントをセキュアでないモードで実行してください。つまり、ストレージアレイの証明書は検証されません。省略した場合、デフォルトで適切な検証が実行されます。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <p>ストレージアレイ証明書の管理に関する追加情報については、を参照してください 保存されている証明書のコマンドラインパラメータの管理。</p> </div>

パラメータ	定義 (Definition)
「-e」と入力します	構文チェックを実行せずにコマンドを実行します。
-L (大文字)	ダウンロード可能なSMcliに関する法的通知を表示します。
「-n」	<p>スクリプトコマンドを実行するローカルに格納されるラベルを指定します。を使用する場合、これはオプションです <i>host-name-or-IP-address</i>。を使用する場合は、ローカルに保存されたラベルが必要です <i>host-name-or-IP-address</i> は使用されません。</p> <p> ローカルに格納されたラベルを使用したストレージアレイの管理に関する追加情報の詳細については、を参照してください 格納されているアレイのコマンドラインパラメータの管理。</p>
「-o」と入力します	<p>スクリプトコマンドの実行で生成されるすべての出力テキストのファイル名を指定します。-o'パラメータは、次のパラメータとともに使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「-c」 「-f」 <p>出力ファイルを指定しない場合、出力テキストは標準出力になります <code>stdout</code>。スクリプトコマンドではないコマンドからの出力は、すべてに送信されます。<code>stdout</code> このパラメータが設定されているかどうかは関係ありません。</p>
「-s」(大文字)	<p>スクリプトコマンドの実行時に表示される、進捗状況を示す情報メッセージが表示されないようにします。（この情報メッセージはサイレントモードとも呼ばれます）。このパラメータを指定すると、次のメッセージは表示さ</p> <ul style="list-style-type: none"> 構文チェックを実行しています 構文チェックが完了しました 「スクリプトの実行」 「スクリプトの実行が完了しました」 SMcliは正常に完了しました
-version	ダウンロード可能なSMcliのバージョンを表示します

パラメータ	定義 (Definition)
「-?」	CLIコマンドの使用方法を表示します。

格納されているアレイの管理

次のコマンド・ライン・パラメータでは、ローカルに保存されたラベルを使用して、格納されたアレイを管理できます。



ローカルに格納されたラベルが、SANtricity システムマネージャに表示される実際のストレージアレイ名と一致しない場合があります。

パラメータ	定義 (Definition)
SMcli storageArrayLabel show all	ローカルに保存されているすべてのラベルとその関連アドレスを表示します
SMcli storageArrayLabel show label <LABEL>	ローカルに保存されているというラベルに関連付けられているアドレスが表示されます <LABEL>
SMcli storageArrayLabel delete all	ローカルに保存されたすべてのラベルを削除します
SMcli storageArrayLabel delete label <LABEL>	ローカルに保存されたという名前のラベルを削除します <LABEL>
SMcli <host-name-or-IP-address> [host-name-or-IP-address] storageArrayLabel add label <LABEL>	<ul style="list-style-type: none"> ローカルに保存されたラベルを名前とともに追加します <LABEL> 指定したアドレスを含む アップデートは直接サポートされていません。更新するには、ラベルを削除してから再度追加してください。 <p> SMcliは、ローカルに保存されたラベルを追加する場合、ストレージアレイに接続しません。</p>

パラメータ	定義 (Definition)
SMcli localCertificate show all	ローカルに保存されているすべての信頼された証明書
SMcli localCertificate show alias <ALIAS>	ローカルに保存されている信頼された証明書とエイリアスを表示します <ALIAS>
SMcli localCertificate delete all	ローカルに保存されている信頼された証明書をすべて

パラメータ	定義 (Definition)
SMcli localCertificate delete alias <ALIAS>	ローカルに保存されている信頼された証明書をエイリアスで削除します <ALIAS>
SMcli localCertificate trust file <CERT_FILE> alias <ALIAS>	<ul style="list-style-type: none"> 信頼できる証明書をエイリアスで保存します <ALIAS> 信頼される証明書は、Webブラウザなどの別の操作でコントローラからダウンロードされます
SMcli <host-name-or-IP-address> [host-name-or-IP-address] localCertificate trust	<ul style="list-style-type: none"> 各アドレスに接続し、信頼された証明書ストアに返された証明書を保存します 指定したホスト名またはIPアドレスは、この方法で保存された各証明書のエイリアスとして使用されます このコマンドを実行する前に、コントローラの証明書が信頼できるものであることをユーザが確認する必要があります 最高のセキュリティを実現するには、ファイルを受け取るtrustコマンドを使用して、証明書がユーザ検証と実行中の間で変更されないようにする必要があります

デバイスの識別

次のコマンドラインパラメータを使用すると、ホストが認識できるすべての該当するデバイスの情報を表示できます。



SANtricity 11.81リリース以降のSMcli identifyDevices パラメータは、以前にSMdevicesツールで使用できた機能を置き換えます。

パラメータ	定義 (Definition)
identifyDevices	ストレージアレイに関連付けられているすべてのSCSIネイティブブロックデバイスを検索します。検出された各デバイスについて、では、ネイティブOS固有のデバイス名、関連付けられているストレージアレイ、ボリューム名、LUN情報など、さまざまな情報が報告されます。

例

次の例を参照してください。 -identifyDevices LinuxおよびWindowsオペレーティングシステム内のパラメータ。

Linux の場合

```
ICTAE11S05H01:~/osean/SMcli-01.81.00.10004/bin # ./SMcli -identifyDevices
<n/a> (/dev/sg2) [Storage Array ictae11s05a01, Volume 1, LUN 0, Volume
ID <600a098000bbd04f00001c7365426b58>, Alternate Path (Controller-A): Non
owning controller - Active/Non-optimized, Preferred Path Auto Changeable:
Yes, Implicit Failback: Yes]
/dev/sdb (/dev/sg3) [Storage Array ictae11s05a01, Volume Access, LUN 7,
Volume ID <600a098000bbcdd3000002005a731d29>]
<n/a> (/dev/sg4) [Storage Array ictae11s05a01, Volume 1, LUN 0, Volume
ID <600a098000bbd04f00001c7365426b58>, Preferred Path (Controller-B):
Owning controller - Active/Optimized, Preferred Path Auto Changeable: Yes,
Implicit Failback: Yes]
/dev/sdc (/dev/sg5) [Storage Array ictae11s05a01, Volume Access, LUN 7,
Volume ID <600a098000bbcdd3000002005a731d29>]
SMcli completed successfully.
```

Windows の場合

```
PS C:\Users\Administrator\Downloads\SMcli-01.81.00.0017\bin> .\SMcli
-identifyDevices
\\.\PHYSICALDRIVE1 [Storage Array ICTAG22S08A01, Volume Vol1, LUN 1,
Volume ID <600a0980006cee060000592e6564fa6a>, Preferred Path (Controller-
B): Owning controller - Active/Optimized, Preferred Path Auto Changeable:
Yes, Implicit Failback: Yes]
\\.\PHYSICALDRIVE2 [Storage Array ICTAG22S08A01, Volume Vol2, LUN 2,
Volume ID <600a0980006ce727000001096564f9f5>, Preferred Path (Controller-
A): Owning controller - Active/Optimized, Preferred Path Auto Changeable:
Yes, Implicit Failback: Yes]
\\.\PHYSICALDRIVE3 [Storage Array ICTAG22S08A01, Volume Vol3, LUN 3,
Volume ID <600a0980006cee06000059326564fa76>, Preferred Path (Controller-
B): Owning controller - Active/Optimized, Preferred Path Auto Changeable:
Yes, Implicit Failback: Yes]
\\.\PHYSICALDRIVE4 [Storage Array ICTAG22S08A01, Volume Vol4, LUN 4,
Volume ID <600a0980006ce7270000010a6564fa01>, Preferred Path (Controller-
A): Owning controller - Active/Optimized, Preferred Path Auto Changeable:
Yes, Implicit Failback: Yes]
SMcli completed successfully.
```

その他の注意事項

- x86-64 プラットフォームを実行する Linux および Windows オペレーティングシステムで、SCSI ベースのホストインターフェイスのみで互換性があります。
 - NVMe ベースのホストインターフェイスはサポートされません。
- `identifyDevices` パラメータでは、OS レベルでの再スキャンは原因されません。OS によって認識

されている既存のデバイスを反復します。

- を実行するための十分なユーザ権限が必要です。 `identifyDevices` コマンドを実行します
 - これには、OSネイティブのブロックデバイスからの読み取りとSCSI Inquiryコマンドの実行が含まれます。

従来のSANtricity CLIコマンドラインパラメータについて学ぶ

SANtricity OS 11.40リリースでは、Webサービスが組み込まれたE2800およびE5700コントローラ向けに、セキュアなHTTPSプロトコルを使用してコマンドラインを操作する機能が導入されました。これらのコントローラでは、必要に応じてSYMBOLプロトコルを使用してコマンドラインを操作することもできます。

11.53以前のコマンドラインパラメータ

SYMBOLプロトコルは、E2700およびE5600コントローラでサポートされる唯一のプロトコルです。既存のスクリプトを引き続き使用できるようにし、移行の手間を最小限に抑えるために、CLIのオプションと構文はできるだけそのままにしてあります。ただし、E2800およびE5700コントローラのセキュリティ、認証、AutoSupport、アラートメッセージの機能にはいくつかの変更があるため、これらのコントローラでは一部のCLI構文が廃止されています。一部の構文は、E2800またはE5700で新しいHTTPSプロトコルが使用される場合にのみ廃止されます。

「* https *」 クライアントタイプにのみ適用される新しいパラメータについては、E2800またはE5700コントローラにのみ適用されます。

パラメータ	定義 (Definition)
<code>-clientType</code>	<p>この引数は、適切なスクリプトエンジンを強制的に作成します。このパラメータはオプションで、次のいずれかの値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 'auto'-適切なスクリプト・エンジン・タイプを検出するためにデバイス検出が自動的に実行されます• https- RESTベースのスクリプトエンジンが作成されます。• symbol-シンボルベースのスクリプトエンジンが作成されます。
<code>-u</code>	<p>このパラメータには'username'変数を指定しますユーザー名は'https'クライアント・タイプにのみ必要ですこの引数は'symbol'クライアント・タイプには適用されず無視されます</p> <p>username引数を指定すると、デバイス検出が実行されて正しいクライアント・タイプ（「* https 」対）が決定されます「symbol *」）を参照してください。</p>

パラメータ	定義 (Definition)
「-P」	<p>この引数には次の2つの引数のいずれかが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>_password_file</code>-認証に使用するパスワードを格納します • -(one Dash)- <code>stdin</code>からパスワードを読み込みます <p>この引数の追加は'<code>https</code>'クライアント・タイプと'<code>symbol</code>'クライアント・タイプのどちらが使用されているかにかかわらず'すべてのコントローラに適用されます</p>
「-k」	<p>このオプション引数を指定すると'<code>https</code>'クライアントは安全でないモードで動作しますつまり、ストレージアレイの証明書は検証されません。デフォルトでは、省略すると適切な認証が実行されます。この引数は'<code>symbol</code>'クライアント・タイプには適用されず、無視されます</p>

E2700またはE5600コントローラにのみ該当するコマンドラインパラメータ

E2700およびE5600コントローラにはアラート管理機能が組み込まれていないため、以下のコマンドラインパラメータを使用できます。これらのパラメータは、E2800またはE5700コントローラには該当しません。

パラメータ	定義 (Definition)
「-A」	<p>簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) トランプの送信先またはアラートの送信先のEメールアドレスを追加します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SNMPトランプの送信先を追加すると、SNMPコミュニティがトランプのコミュニティ名として自動的に定義され、「* host *」はトランプの送信先システムのIPアドレスまたはドメインネームサーバ (DNS) ホスト名です。 • アラートの送信先の電子メールアドレスを追加する場合、「* email-address *」は、警告メッセージの送信先となる電子メールアドレスです。 <p> このコマンドラインオプションは、E2800とE5700のストレージアレイに対しては廃止されています。RESTful API、SANtricity システムマネージャ、またはcURLコマンドを使用してください。</p>

パラメータ	定義 (Definition)
「-m」と入力します	<p>Eメールアラート通知の送信元であるEメールサーバのホスト名またはIPアドレスを指定します。</p> <p> このコマンドラインオプションは、E2800とE5700のストレージアレイに対しては廃止されています。RESTful API、SANtricity システムマネージャ、またはcURLコマンドを使用してください。</p>
-s (小文字)	<p>に'-d'パラメータとともに使用した場合の構成ファイルのアラート設定を示します</p> <p> このコマンドラインオプションは、E2800とE5700のストレージアレイに対しては廃止されています。RESTful API、SANtricity システムマネージャ、またはcURLコマンドを使用してください。</p>
-x(小文字)	<p>SNMPトラップの送信先またはアラートの送信先Eメールアドレスを削除します。「<i>community</i>」はトラップのSNMPコミュニティ名で、「<i>host</i>」はトラップの送信先システムのIPアドレスまたはDNSホスト名です。</p> <p> このコマンドラインオプションは、E2800とE5700のストレージアレイに対しては廃止されています。RESTful API、SANtricity システムマネージャ、またはcURLコマンドを使用してください。</p>

symbol クライアントタイプで実行されているすべてのコントローラに適用されるコマンドラインパラメータ

パラメータ	定義 (Definition)
「R」 (大文字) 「-R」 (大文字) 「-R」 (小文字)	<p>パスワードのユーザロールを定義します。ロールには次のいずれかを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• admin--ユーザーはストレージ・アレイの構成を変更する権限を持っています• monitor--ユーザーにはストレージアレイの構成を表示する権限がありますが変更はできません <p>'-R'パラメータは'*-p '*'パラメータとともに使用する場合にのみ有効ですこのパラメータは'ストレージ・アレイのパスワードを定義することを指定します</p> <p>「-R」 パラメータは、ストレージ・アレイでデュアル・パスワード機能が有効になっている場合にのみ必要です。これらの条件では'-R'パラメータは不要です</p> <ul style="list-style-type: none">• ストレージアレイでデュアルパスワード機能が有効になっていません。• ストレージアレイにAdminロールが1つだけ設定されていて、Monitorロールが設定されていない。

すべてのコントローラおよびすべてのクライアントタイプに適用可能なコマンドラインパラメータ

パラメータ	定義 (Definition)
<code>host-name-or -ip-address</code>	<p>帯域内管理ストレージ・アレイまたは帯域外管理ストレージ・アレイのホスト名またはインターネット・プロトコル (IP) アドレス ('<code>xxx.xxx.xxx.xxx</code>') を指定します</p> <ul style="list-style-type: none"> ホストからインバンド・ストレージ管理を使用してストレージ・アレイを管理する場合'複数のストレージ・アレイがホストに接続されている場合は'-n'パラメータまたは-w'パラメータを使用する必要があります 各コントローラ上のイーサネット接続を介したアウトオブバンドストレージ管理を使用してストレージアレイを管理する場合は、コントローラの「<code>host-name-or -ip-address</code>」を指定する必要があります。 以前にEnterprise Management Windowでストレージ・アレイを設定済みの場合は'-n'パラメータを使用して'ユーザーが指定した名前でストレージ・アレイを指定できます 以前にEnterprise Management Windowでストレージアレイを設定済みの場合は、World Wide Identifier (WWID) を使用してストレージアレイを指定できます。
「-A」	<p>構成ファイルにストレージアレイを追加します。'-a' パラメータに'<code>host-name-or -ip-address</code>'を指定しない場合'自動検出は'ローカル・サブネットをスキャンしてストレージ・アレイを検出します</p>
「-c」	<p>指定したストレージアレイで実行するスクリプトコマンドを入力することを示します。各コマンドをセミコロン(;)で終了します。同じコマンド行に複数の'-c'パラメータを配置することはできません「-c」パラメータの後には、複数のスクリプトコマンドを含めることができます。</p>
d`	<p>スクリプト構成ファイルの内容を表示します。ファイルの内容は、「<code>storage-system-name host_name1 host_name2</code>」の形式になります</p>
「-e」と入力します	<p>構文チェックを実行せずにコマンドを実行します。</p>
F (大文字)	<p>すべてのアラートの送信元となるEメールアドレスを指定します。</p>

パラメータ	定義 (Definition)
-f(小文字)	<p>指定したストレージアレイで実行するスクリプトコマンドを含むファイルの名前を指定します。'-f'パラメータはどちらもスクリプト・コマンドを実行するためのものであるという点で'-c'パラメータと似ています-cパラメータは'個のスクリプト・コマンドを実行します-fパラメータは'スクリプト・コマンドのファイルを実行しますデフォルトでは、ファイルでスクリプトコマンドを実行したときに発生したエラーは無視され、ファイルは引き続き実行されます。この動作をオーバーライドするには、スクリプトファイルで「set session errorAction=stop」コマンドを使用します。</p>
「-g」	<p>Eメール送信者の連絡先情報が格納されたASCIIファイルを指定します。この連絡先はすべてのEメールアラート通知に記載されます。区切り記号や書式設定のない、テキストのみのASCIIファイルを指定する必要があります。「userdata.txt」ファイルが存在する場合は、「-g」パラメータは使用しないでください。</p>
「-h」と入力します	<p>ストレージアレイの接続先であるSNMPエージェントを実行しているホストの名前を指定します。「-h」パラメータは、次のパラメータとともに使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「-A」 「-x」と入力します
「-i」(大文字)	<p>Eメールアラート通知に含める情報のタイプを指定します。次の値を選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> eventOnly-イベント情報のみが電子メールに含まれています profile --イベントとアレイのプロファイル情報が電子メールに含まれています <p>電子メール配信の頻度は'-q'パラメータを使用して指定できます</p>
「-i」(小文字)	<p>既知のストレージアレイのIPアドレスを表示します。「-i」パラメータは、「-d」パラメータとともに使用します。ファイルの内容の形式は'storage-system-name IP-address1 ipAddress2'です</p>

パラメータ	定義 (Definition)
「-n」	<p>スクリプトコマンドを実行するストレージアレイの名前を指定します。この名前は'<i>host-name-or -ip-address</i>'を使用する場合は省略可能ですストレージ・アレイの管理にインバンド方式を使用している場合複数のストレージ・アレイが指定されたアドレスでホストに接続されている場合は'-n'パラメータを使用する必要があります「<i>host-name-or -ip-address</i>」が使用されていない場合、ストレージアレイ名は必須です。Enterprise Management Windowで使用するように設定したストレージアレイの名前（構成ファイルに定義されている名前）が、設定済みの他のストレージアレイの名前と重複しないようにしてください。</p>
「-o」と入力します	<p>スクリプトコマンドの実行で生成されるすべての出力テキストのファイル名を指定します。-o'パラメータは、次のパラメータとともに使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「-c」 「-f」 <p>出力ファイルを指定しない場合、出力テキストは標準出力（stdout）に出力されます。このパラメータが設定されているかどうかに関係なく、スクリプトコマンド以外のコマンドからの出力はすべてstdoutに送信されます。</p>
「-p」	<p>コマンドを実行するストレージアレイのパスワードを定義します。次の場合、パスワードは必要ありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ストレージアレイにパスワードが設定されていません。 パスワードは、実行しているスクリプトファイルで指定します。 パスワードを指定するには'-c'パラメータと次のコマンドを使用します <pre data-bbox="856 1600 1367 1632">set session password=password</pre>

パラメータ	定義 (Definition)
「-P」	<p>この引数には次の2つの引数のいずれかが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>_password_file</code>-認証に使用するパスワードを格納します • -(Dash)- <code>stdin</code>からパスワードを読み込みます <p>この引数の追加は'<code>https</code>'クライアント・タイプと'<code>symbol</code>'クライアント・タイプのどちらが使用されているかにかかわらず'すべてのコントローラに適用されます</p>
「-q」と入力します	<p>イベント通知を受信する頻度およびイベント通知で返される情報のタイプを指定します。重大イベントについては、最低でも基本的なイベント情報を含むEメールアラート通知が生成されます。これらの値は'-q'パラメータに有効です</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>everyEvent</code>--すべての電子メールアラート通知と共に情報が返される。 • 2--情報は2時間ごとに何回も返されない。 • 4--情報は4時間ごとに何回も返されない。 • 8--情報は8時間ごとに何度も返されない。 • 12日--情報は12時間ごとに1回しか返されません。 • 24日--情報は24時間ごとに1回しか返されません。 <p>-iパラメータを使用すると'メール・アラート通知に含まれる情報のタイプを指定できます</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「-i」パラメータを「<code>eventOnly</code>」に設定した場合、「-q」パラメータに有効な値は「<code>everyEvent</code>」のみです。 • 「-i」パラメータを「<code>profile</code>」値または「<code>supportbundle</code>」値に設定した場合、この情報は、「-q」パラメータで指定された頻度で電子メールに含まれます。

パラメータ	定義 (Definition)
「-quick」	単一行の処理に要する時間を短縮します。単一行操作の例としては'recreate snapshot volumeコマンドがありますこのパラメータは、コマンドの実行中にバックグラウンドプロセスを実行しないことで時間を短縮します。単一行の処理が複数含まれる処理には、このパラメータを使用しないでください。このコマンドを多用した場合、コントローラの処理能力を超える数のコマンドが実行されてオーバーランが発生し、処理が失敗する可能性があります。また、通常バックグラウンドプロセスから収集されるステータスおよび設定の更新をCLIで使用することはできません。このパラメータを指定すると、バックグラウンド情報に依存する処理が失敗します。
「-S」 (大文字)	<p>スクリプトコマンドの実行時に表示される、進捗状況を示す情報メッセージが表示されないようにします。（この情報メッセージはサイレントモードとも呼ばれます）。このパラメータを指定すると、次のメッセージは表示さ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 構文チェックを実行しています • 構文チェックが完了しました • 「スクリプトの実行」 • 「スクリプトの実行が完了しました」 • SMcliは正常に完了しました
-useLegacyTransferPort	転送ポートをに設定します。 8443 デフォルトの代わりに 443。
「-v」	-dパラメータとともに使用した場合構成ファイル内の既知のデバイスの現在のグローバルステータスを表示します
「-w」	ストレージアレイのWWIDを指定します。このパラメータは'-n'パラメータに代わるもので既知のストレージ・アレイのWWIDを表示するには'-d'パラメータとともに-w'パラメータを使用しますファイルの内容の形式は、「 <i>storage-system-name worldwide ID IP-address1 IP-address2</i> 」です
`-X (大文字)	ストレージアレイを構成から削除します。
「-?」	CLIコマンドの使用方法を表示します。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。